

鐘華会九州支部だより

九州支部だより 第7号
発行 2004年11月12日
発行者 中村 晃

熊 本 だ よ り その②

後 藤 祐 吉



今回は熊本城の秋を見て下さい。

2007年に築城400年を迎える熊本城は別名を銀杏城と呼ばれていますが、城内には樹齢数百年の素晴らしい樹が多数見られます。他の紅葉は殆ど見られません。

加藤清正がいざという時の食料に備えたと言われています。

私の思い出日記 (3)

江 崎 昭 三

【昭和45年6月】

本社化成事業部に転勤。

この年、大阪万博が開かれ横浜から子供の友達が次々と来て、わが家は朝早くから夜遅くまで宿がわりにされ大変であった。

【昭和46年12月】

油脂事業部は食品事業部となった。

発酵飼料関係者は食品事業部に転籍し、発酵飼料の販売をしながら、カネプロン（石油酵母）の安全性確認試験の為、各大学・各県水産研究所・飼料会社等研究機関に通い、データ作りに協力した。

安全性確認試験報告書は厚生省・農林水産省に提出されたが、この頃から環境・公害問題とともに食品の安全性が社会問題化し、昭和48年2月カネプロンの企業化は中止された。その後、飼料部門は徐々に採算制が悪くなり、ミカマイフィードは昭和50年、UGFACは53年生産が中止された。



昭和60年当時、事務所にて
57才 髪も黒々で若かった

【昭和47年3月15日】

（山陽新幹線、新大阪～岡山が開通）

【昭和50年3月10日】

（山陽新幹線、新大阪～博多間が全線開通）

【昭和51年？月】

カネカ興産へ出向。カネプロン開発当時関係のあった日鉱油化と鐘化の合併で日本鉱業敦賀工場の温排水を利用した養鰻事業、敦賀養鰻（株）の管理で原料となるシラスうなぎの購入・飼料の購買、製品鰻の関西地区の販売を担当した。

相手は生きもの、販売は時価の相場取引であり、一喜一憂したものだ。

その後、昭和60年日鉱油化に株式を譲渡し養鰻事業から撤退した。

【昭和52年9月】

創立28年記念日に30年勤続感謝状を貰った。

【昭和53年6月】

飼料部門の撤退に伴い、整理を兼ねて新日本飼料（株）が設立された。カネカ興産から本社企画2部飼料開発室へ復職。

【昭和54年？月】

新日本飼料（株）へ出向。カネプロン開発当時くるまエビ用飼料の共同研究した鹿児島

県水産試験場の関係先（株）ヒガシマルにRNP酵母を販売し、同社生産のくるまエビ用飼料の販売代理店として全国のくるまエビ飼育生産業者に販売を開始。新日本飼料の売上げ主力商品となった。

又、東レ（株）のLリジンの販売代理店となり、各飼料メーカーに販売した。

一方鐘化高砂工業所イースト課で発生する、イースト廃液の濃縮液KFL・乾燥品KFSの肥料メーカーへの販売を行い、イースト生産を影で支え貢献した。

【昭和61年5月】

定年退職。（当時は58才定年であった）定年旅行は娘婿が香港丸紅にいたこと関係もあり香港・マカオ・中国に行った。

【昭和64年1月7日】

（昭和天皇崩御、年号は平成に変わった）

【平成2年4月】

花と緑の博覧会が大阪で始まり、土・日休日に車椅子・ベビーカーの貸出しのボランティアに参加。

ボランティア活動を始めるきっかけになった。雨の日などは大変であったが良い思い出である。

会員の広場

新築したSCの家で独りで

カネカ在職時にはカネカロン（大阪）、化成事業部（東京）の塩ビとペースト、いずれも海外での営業をしていました。

平成 13 年 11 月に定年退職。その後、和泉市の家の近くにあるカネカロンの関係会社に一時勤務。

平成 14 年の後半から郷里の大分県津久見市に S C の家の建築を始める一方で、大阪の関係会社を退職。

平成 15 年春に郷里に帰り、単身での生活を始めています。

余生を田舎でのんびりと快適に過ごすのに、S C の家は最適であると思い S C の家を選びました。津久見市は元々温暖な気候であり、冬でも雪を見ることはほとんどありません。

S C の家は機密性がよく、冬の夜は暖かい睡眠がとれるし、夏には冷房を入れれば涼しい室内になります。

家を建てたのはよいのですが、問題は大阪からまだ女房が来ないこと。田舎に帰り単身での生活を強いられている状態が続いており、炊事洗濯から家事全般を一人でやらねばなりません。

何もせず一人暮らしの生活をしていたら早くボケになる、身体と頭を少しでも使ってどこかで働く方がよい、と郷里の友人が建設業協会への就職を斡旋してくれました。

建設業協会は建設業者の組合団体で、納入会費で運営されており、営利目的の団体ではありません。バブル時代には隆盛を誇る団体であったようです。しかし、バブル崩壊以降

薬師寺 是文（津久見市在住）

は公共工事予算の削減、競争の激化で中小建設業者は大変な苦境に陥り、廃業や倒産が増加している状況が続いています。

カネカでの職歴経験、知識などとは全く関係のない業界、世界ですが、それなりに仕事をこなし勤務を続け 1 年半が過ぎました。

リアス式海岸はすぐ目の前。後ろには緑の



SC の意味は Small and Charming と解釈して写真に見られるように小さなそして魅力的な家を、女房の嗜好に合わせて建築

雑木林の山、自然に囲まれた生活は快適。休日には友人と一緒に小船で湾内での魚釣り。釣ってきた魚は自分でサシミや焼き魚に料理して結構料理の腕が上がっております。小型船舶の免許を取得し、友人から借用している船外機の小船で一人海の上で過ごす日もあります。

周囲の知人や友人とは月に 1 ～ 2 回の

ゴルフも楽しんでいます。

津久見市も過疎化が益々進み人口 23,000 人、少子高齢化の典型的な田舎町。子供の数が少なくなり、小中学校は統廃合され、昔からの商店街は人通りが少なく、空き家や駐車場になっています。

周辺に日本一と言われる石灰岩の山があり、太平洋セメントの大きな主力工場があります。小野田セメントと言われた昔は 1,000 人以上の従業員がいましたが、今は 200 人となり、省力化と合理化が進み工場での生産量は以前に比べて増産している状況です。

津久見市に来られる機会がありましたら、ご連絡頂ければ、無料での宿泊をご提供いたします。

皿倉・権現・帆柱・花尾山ハイキング

上 野 記



5月22日(土)。その日、北九州は2～3日続いた雨も晴れ上がり、心地よい朝でした。

とはいっても熊本を朝早く出られ方は、雨だったとのことで、メンバーの中に晴れ男がいたのでしょう。

午前9時45分JR黒崎駅に集合。10時発のバスに乗り込んだ。約20分で帆柱登山口に到着、歩くこと10分で帆柱ケーブル駅に。

朝の準備を済ませ、10時40分登山を開始した。朝の木漏れ日を浴びながら、「煌彩の森コース」を少し登ると、ものの10分で、本日のメインルート東稜線の「国見岩コース」へと移った。

雑木の自然林の整備された山道をゆっくりと登る。高度が上がるにつれて、木々の間から洞海湾を中心とした八幡、戸畑、若松の町が望める。

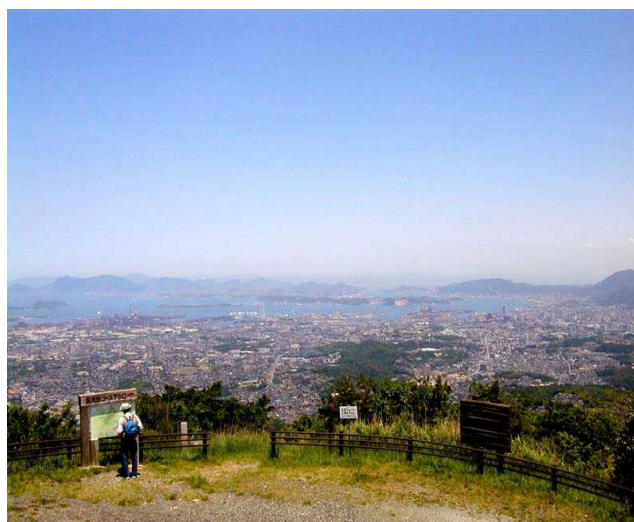
ゆっくりとした足取りで1時間弱登ると、大蔵、河内からのルートと合体する。鳥の囀り、カラスの鳴き声の下の方から聞こえるようになると、皿倉山東側の稜線づたいの登りとなる。大きな木々も少なくなり、日は照っていても冷やりとした風がとても気持ち良く、また、一挙に響灘、関門、小倉・門司の北九州の町並みが見え最高の気分を味わいつつの登山になる。

国見岩付近を通る時は勾配も厳しく、結構ハードな登り道。そこを登りきると急に開けた頂上一帯の公園広場に出る。見晴台のベンチで昼食をとる事にした。渡辺氏差し入れのビールは汗をかいた者への最高のご馳走となった。

食後、頂上の見晴台から、筆者講釈入りの360度眺望を楽しんだ。天気は良く、西は山塊の向こうに赤間・宗像の連山から、遠賀川の平野、麓の黒崎、八幡西の街々。北の真正面は遠く響灘、若松。洞海湾を挟んで手前は、八幡東から戸畑の街が広がる。東は遠く山口の山々、関門海峡を背景に門司、小倉の町並みが更に右奥に周防灘までのぞむことが出来る。南は福智山、平尾台から遠く英彦山が霞んで見える。日本の夜景名山といわれるが、昼間の眺望もたいしたものだ。

上空には、いくつものハングライダーが気持ちよさそうに春の北風によって飛んでいるのを間近に見る。

1時過ぎには、皿倉山頂上を後にし、権現山、帆柱山に向かった。途中八合目まで下ったところの「皿倉平」から、整備された林道を杉林へと足を運び鬱蒼とした杉林を10分位西方に歩くと、権現頂上直ぐ下の辺りで、大きな杉の木を見つける。



上の方が朽ち、しめ縄を張った大きな老木『皇后杉』。その昔、神宮皇后が三韓西征の折、これらの杉を切って船の帆柱に使ったことからこのあたりの山全体を帆柱山と名づけたと伝えられる。

更に少し林道を西に進み、「**権現の辻**」より別れて、下りの獣道に入る。獣道とはいっても整備されたハイキングコースで、いっきに下る。「**帆柱の辻**」で今度は次の峰になる、帆柱山への登りとなる。ずっと続く林間の登山道を喘ぎながらこれまたいっきに登りつめると、**帆柱山**の頂上に着く。

木々が覆い、見晴らしは皿倉山のようにはいかないにしても黒崎から西、遠賀の平野を見渡すことが出来る。遠賀は古くは日本書紀にも「**崗の県**」として出てくる由緒あるところで、この中心地、遠賀川河口の山鹿の里は、西の松浦（佐賀・長崎）とともに栄えた所だそうだ。

本日の山塊コースで一番西の峰、帆柱山でしばしの休息を取ると、今度は西稜線をブッシュと林を少し下り、「帆柱分岐」より帆柱山腹北斜面の山道「**ふれあいの森コース**」をひたすら下る。さすがにこのコースは人の通ったけはいはなく、倒木が道を塞いだところもあり、また崩れかかった沢を横切るなど、変化に富んだ番外コースとなっている。

急峻な山腹を下り切ると、帆柱と花尾両山の狭間の山あいとなる。此处には花尾城址の記念碑があり、一休みする。そこから**花尾山頂上の城跡**へと約100メートル弱の高度差の北面をいっきに登城する。道は広いが、やはり急な山道だ。息が切れる。やっと着いた頂上は城跡だけあって平地になっており、国旗掲揚台と見晴台がある。

北側は開けた眺望、南側は皿倉・権現・帆柱の山並が見える。北面眼下には西から遠賀、八幡、戸畑、若松と身近に見晴らせ、麻生の居城として、その昔の栄華が偲ばれる。しかし、その家来はたまったものではなかっただろう。山城への登城合図の太鼓がなくてもそう簡単には登城出来ない。たまには平地での戦略会議を希望したことであろう。

花尾山からの下山は急な階段で、二の丸、三の丸、四の丸、物見櫓跡と通りながら、結構皆膝にきたのではなかろうか。下り切ると民家が立ち並ぶバス道を横切り、今度は**河頭**

山の登山となる。途中大きな藪椿の森の中に頭山満（玄洋社を設立した人物）の書いた『忠孝』の字を彫った大きな石碑の前で休憩。

ここから又、最後の難関河頭山に向け、急峻な山道を喘ぎ登る。頂上から本日の縦走山塊を見返りながら最後の休憩をと

った。最後は河頭山北斜面の自然林で落葉の稜線を滑るようにいっきに下り、黒崎の山里で、ビールの待つ拙宅に向かったのであります。

到着したのは午後4時40分。朝からちょうど延べ6時間のハードではあったが、楽しいハイキングとなった。ビールを飲みながら本日の反省会で時間となり、興も覚めやらず**JR 黒崎駅**へと向かったのであります。

遠く熊本、福岡からこられた諸氏が本日の登山はバラエティある面白いコースと満足して頂いたのが、案内した小生の喜びでした。

参加者は榑崎、川上、中村、渡辺各氏と上野の5人。楽しみにしていた市木氏はご母堂様のご不幸で参加できなかったのが残念。

又違うルートの登山を企画し、ご一緒出来たらなと思う次第。



<平成 16 年度活動報告>

◇ 既に実施した行事

年	月	日	活 動 内 容
16	2	13	幹事会・第2回作品展
	2	13	九鐘会との懇親会・勉強会(カネ食・医療器)
	3	9	(鐘華会役員会)
	3	27	第2回ハイキング(基山・天拝山)
	4	21	第7回ゴルフコンペ(小郡CC)
	5	15	支部だより第6号発行
	5	22	第3回ハイキング(北九州の山)
	6	15	(鐘華会臨時役員会)
	7	15	(第51号鐘華ニュース)
	10	13	幹事会
	10	22	(鐘華会総会)
	11	12	小倉城と門司港レトロの旅・例会
	11	13	第8回ゴルフコンペ(瀬板の森ゴルフコース)

◇ これからの予定

年	月	日	活 動 予 定
17	1	15	(第52号鐘華ニュース)
	3	4	幹事会・勉強会
			九鐘会との懇親会(九州カネ食にて)
	3	19	第4回ハイキング

- 恒例の九鐘会との懇親会は、3月4日ごろ九州カネ食(鳥栖)の職場訪問も兼ねて実施したいと思います。
- ハイキングは、市木さんをお願いして3月に実施したいと思います。

<鐘華会総会報告>

平成 16 年 10 月 22 日(金)新神戸オリエンタルホテルにて第 6 回鐘華会総会が開かれました。

鐘華会は昭和 54 年発足以来、今年で 25 年になりました。会社も今年は創立 55 周年を迎え、過去最高の業績を上げると共に、この 9 月には社名を「カネカ」と改め、新たな成長に向けてスタートしました。

鐘華会会員数も発足当時の 602 名から 1,429 名へと増加すると共に、会員の交流も活発化してきております。このような背景を踏まえ、役員会にて会の一層円滑な運営を図るべく、下記の如く規約改訂を行ないました。

- ①会費を徴収する。(500 円/年)
 - ②役員の任期を決める。(役員 4 年 委員 2 年)
 - ③年度収支報告を「鐘華」紙上で行なう。
- (「鐘華 51 号」「会員住所録」をご参照下さい)

(コエンザイムQ10 社内販売開始)

最近、マスコミで話題沸騰の「コエンザイムQ10」を「九州カネライト」で社員やOBに販売できるように代理店契約を交わしました。

「コエンザイムQ10」は、カネカが昭和 52 年から医薬品(QX)として生産していましたが、欧米でサプリメントとしても評判になり、日本でも 3 年前に機能性食品として認められました。最近「あるある大辞典」や「おもいきりTV」で放映され、大反響を呼んでいます。是非、一度お試しください。

まだあまり知られていませんが、それを世界に供給できるのは日本の企業だけで、そのシェアの約 70%はカネカです。(別添資料をご参照下さい)

- 幹旋価格：4,500 円/1 箱(60 カプセル：約 2 ヶ月分 希望小売価格：19,800 円)
- 送料は何箱でも 1 回 500 円負担願います。

あとがき・後藤さんに残り 3 花をお願いしたところ、「花より銀杏」と熊本城の写真を送っていただきました。

- ・ 江崎さんの思いで日記はいよいよラストに近づきましたが、カネカ退職後の生活ぶりを次回にお願いします。それにしても当時のご苦勞が、今日のカネカの精密化学品や機能性食品の繁栄につながったと思います。
- ・ 薬師寺さんはゴルフコンペの常連ですが、ご存知ない会員が多いと思い近況を書いていただきました。
- ・ 北九州の山は変化に富んで楽しい 1 日でした。また、上野さんの豪邸でのビールも格別でした。
- ・ 「コエンザイムQ10」をご希望の方は九州カネライト・中村または成相まで連絡下さい。送料がかかりますのでまとめて 2 箱以上お買いいただくことをお勧めします。(TEL：0942-54-1992)